

社会福祉法人 幼保連携型

認定こども園 みどりのかぜ 北ウィング（青森県八戸市）

職員数：29 名 在籍園児数：79 名（令和4年2月時点）

【子育て支援事業】

同園開園にあたり地域子育て支援拠点事業を受託し、園内に同園運営による地域子育て支援センター「ウィンディー」を設立。未就園児の親子に向けたサークル活動の提供、園開放・園庭開放、一時預かりを実施している。

・未就園児・保護者に向けたサークル活動の提供／園開放・園庭開放

（園児の親子・地域の親子が交流する場の開設、交流の場での情報提供・相談支援事業）

・一時保育（一時預かり事業（施設型））

・放課後児童クラブ（学童保育）（※運営主体（社会福祉法人）による運営）

・災害時の福祉避難所機能（その他事業）

◆年間利用者数：各種サークル参加者数：合計約400名、一時保育：約370名

◆財源：自主財源の他、一時預かり事業・延長保育事業（一時預かり）、地域子育て支援拠点事業のほか、同園運営法人による放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）を活用

子育て支援事業の内容

●園開放・園庭開放／サークル活動の提供（いずれも地域子育て支援拠点事業として実施）

【概要】

日 時	サークル活動：毎月2～3回（金曜日10:00～11:00）開催 園開放・園庭解放：毎週月曜日～金曜日（10:00～15:00）
場 所	サークル活動：園内の子育て支援事業専用室 園開放・園庭解放：園内施設や姉妹園「認定こども園 みどりのかぜ エデュカーレ」の園庭 他
担当職員	主幹保育教諭1名、地域子育て拠点事業専任担当の保育教諭1名、子育て支援事業全般担当の保育教諭1名、子育て支援員1名（非正規）
対象者	八戸市内及び近隣の町村在住の未就園児・保護者 （サークル活動：2歳未満の子ども・保護者「ほのぼのクラブ」 2歳以上の子ども・保護者「かぜっこランド」）
園や職員の役割	場所の提供、各会の企画・実施

- 地域子育て支援拠点事業として、園開放・園庭開放やサークル活動の提供を行っている。
- 園開放、園庭開放にはサークル活動の参加や事前登録は必要なく、自由に園庭で遊んだり、系列法人の地域交流活動支援施設「みんなの森オアゾ」（地域の異年齢交流施設）を使うことができる。
- サークル活動は、未就園児の親子向け、2歳児未満の子ども・保護者サークル「ほのぼのクラブ」と、2歳児以上の子ども・保護者サークル「かぜっこランド」を運営している。
- サークルでは、季節に応じた制作活動や、夏の流しそうめん体験やさいか割り、クリスマスケーキ作り等といった、四季折々の生活の体験を取り入れた食育活動を行っている。そのほか、地域の自然にふれる散歩「てくてくランド」、外部講師を招いた「親子ピクス（親子で行うエアロピクス）」、絵本作

家による「絵本の読み聞かせ」などを行っている。

- また、姉妹園である「認定こども園 みどりのかぜ エデュカーレ」の3歳未満児専用園庭で活動することもある。
- コロナ禍前はサークルに参加した親子（1日10組）を対象とし、「おしゃべりママカフェ」と題した昼食と保護者同士の交流の場を提供していた（現在は弁当の提供のみとなっている）。
- 未就園児保護者が気軽に相談できるよう、園庭解放やサークル活動の時間を使い、未就園児保護者からの育児相談にも応じている。

【取り組む上での工夫】

教職員同士でフォローし合い、保護者同士がリラックスできる雰囲気をつくる

- 保護者には育児相談や保護者同士の交流の場の提供を行っている。また、サークル活動の開始前後に、リラックスした雰囲気を大事にしながら、保育教諭や子育て支援員が子育てに関する相談を受け付けている。
- 姉妹園「認定こども園 みどりのかぜ エデュカーレ」や、系列法人が運営する地域交流活動支援施設「みんなの森 オアゾ」と、合同での行事開催や「おしゃべりママカフェ」「マタニティカフェ」などの保護者同士がリラックスして子育ての話がしやすい場の提供を行っている。
- 上記のような取組を行うに当たって、姉妹園や系列法人内の職員が取組に係る人員配置の協力や情報共有などでフォローし合う体制を取っている。



お子様と触れ合いながら音楽に合わせてエクササイズ♪産後の体のケアにもおすすめです。



“ママと一緒に”がいつの間にか“じぶんで”に変化して…。成長を感じられる制作活動です。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

保護者が「子育ての楽しみ」を感じられるような取組を行う

- 保護者と接しているなかで、「子育ては大変」と感じている保護者（特に母親）が多いことが分かった。
- 大変な中でも、喜びや楽しさを感じ、保護者が自己肯定感を持って子育てに向き合い、生きがいを持って子育てを楽しめるような支援とともに、「明日からまた頑張ろう」と思えるパワーとなるようにとの願いから、「おしゃべりママカフェ」「マタニティカフェ」といった飲食を通じた交流の場や育児相談を行い、リラックスして楽しめる企画を実施することとした。



何気ないおしゃべりからはじまる育児相談。
ウィンディーは“ママ”を応援していることを伝えて
います。

- 例えば、出産前の女性が利用する「マタニティカフェ」では、出産に向けて妊婦同士の出会いをサポートし、体調面、精神面の期待と不安を分かち合い、少しでも安心して出産の日を迎える一助になればと考えて実施している。時には子育て経験がある職員に相談することができるよう、職員を配置している。
- 法人・園の全ての職員が「子育て支援事業」が地域の子育て家庭にとって、大事な役割を担うものであることを意識し、担当、担任如何によらず、「子育て支援サークル」等に参加する親子に接することができるよう意識付けをし、「園全体で子育て支援の子どもたちを大事にすること」を指導している。

●一時保育

【概要】

日 時	毎週月曜日～金曜日(7:00～19:30)
場 所	園内
担当職員	地域子育て拠点事業専任担当の保育教諭 1 名、子育て支援事業全般担当の保育教諭 1 名
対象者	八戸市内及び近隣の町村の未就園児(1 歳～2 歳)
定 員	1 日 1～3 名まで
保育料金	300 円(1 時間／1 人)
利用登録	必要(事前書類と聞き取りを行う)
園や職員の役割	場所・保育の提供

- 「保護者のリフレッシュのため、通院のため、きょうだいの行事のため等、あらゆるニーズに応える」という考えの下、一時保育を実施している。
- 近年は特に、子育てに疲れを感じたり、育児に不安や負担感を抱える母親の声を聞くこともある。そのような時は一時保育を勧め、利用してもらうこともある。



“ウィンディーのお友達にも見せたい！”とサークル利用者に向けて制作を披露する園児達。園の中の
当たり前として、子育て支援センターがあります。



ママと簡単に作れる新聞紙キッズテントの“秘密基地”
手作りおもちゃで会話が弾みます。

≪認定こども園と連携し、園の運営主体である社会福祉法人が行っている取組≫

●放課後児童クラブ

【概要】

日 時	毎週月曜日～金曜日 : 下校後～19:00(延長あり) 毎週土曜日 : 8:00～17:00(延長あり) 代休・長期休業 : 8:00～19:00(延長あり)
場 所	みどりのかぜ北ウィング内、みどりのかぜエデュカーレ内、 西白山台小学校内（みどりのもり児童クラブ）
担当職員	放課後児童クラブ支援員 6 名、指導員 9 名
対象者	八戸市内の小学生
定 員	みどりのかぜ児童クラブ 80 名、みどりのもり児童クラブ 70 名
料金	みどりのかぜ児童クラブ 6,000 円(1 か月／1 人)、みどりのもり児童クラブ 5,000 円(1 か月／1 人)
園や職員の役割	場所・保育の提供

- 園内及び姉妹園・小学校に放課後児童クラブ（学童保育）を設置・運営している。
- 預かりのほか、毎月 1 回（土曜日）には体験学習活動「ジョイフルデー」として公共施設に出かけたり、クラブでワークショップをしたりと、子ども達が様々な体験ができる機会を設けている。
- また、毎月誕生会を行い、手作りのプレゼントを渡し、ゲームなどを楽しんでいる。
- 指導員（J3 サッカーチーム「ヴァンラーレ八戸」の選手（後述）と外でサッカーをしたり、体を動かしたりと、活発に活動を展開している。



学校以外の子ども達の居場所として、楽しくワクワクできる体験を大切にしています。

【取り組む上での工夫】

地域のスポーツクラブと連携し、子育て支援を実施

- 八戸の J3 サッカーチーム「ヴァンラーレ八戸」の選手が放課後児童クラブの指導員として勤務している。
- 選手には、時には園の子育て支援事業の手伝いや、園の行事へ参画をしてもらうこともある。
- 選手たちには、採用と同時に職員マニュアルの読み合わせを行い指導員としての心構え等を研修している。また、毎月 1 回支援員、指導員でのケース会議を行っている。さらには外部研修や市内クラブとの情報交換会も開催している。



憧れのプロサッカー選手との関わりは「ヴァンラーレ八戸」ファンになることへ繋がっています。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

子どもが落ち着ける居場所を用意し、保護者の仕事への影響を軽減

- 小学校入学を控えた保護者から、子どもが小学校に上がることによって、子どもの生活環境が変化し、子どもが落ち着ける居場所がなくなってしまうことへの不安の声があった。
- これに伴い、保護者が仕事への影響を考え「仕事を辞めざるを得ない」という切実な声も聞き、園内に同園を卒園した子どもや地域の小学生の居場所を作りたいと考え、放課後児童クラブを行うこととした。
- 特に、支援を必要とする子への対応には、利用児童について小学校との情報交換を密にしていきたいと考えている（コロナ禍の影響もあり、現在はまだ実現に至っていない）。
- 自主帰宅（保護者の送迎がなく、自分ひとりで帰宅する小学生）の利用者については、保護者とのコミュニケーションが取りづらいため、手帳を利用して児童クラブの様子を伝えるようにしている。

●地域全体で子育てを楽しめる環境づくり

【概要】

- 園の子育て支援に留まらず、姉妹園や他の団体と協力して子育て支援を行うことで、地域全体で交流を持ち、地域内で協力したり相談し合えたりできる、子育てを楽しめる環境作りを目指している。
- 同園の子育て支援事業の利用者が、姉妹園や関連施設に行って保護者間交流を行っている。
- また、法人全体事業では、こども食堂やこども宅食（フードパントリー）を行う。これらの取組は、地域の子育て家庭に広く周知し、利用できるようにしている。
- 八戸市の災害時福祉避難所の指定を受け、災害時には障害者、妊産婦、乳幼児を対象に避難所を開設する。園には常に粉ミルクや哺乳瓶などを備蓄し、赤ちゃんや妊産婦などがいつ来ても大丈夫なように環境を整えている。



「こども食堂」を利用する子どもたち。みんなで食べるご飯が美味しいことを改めて感じています。



必要とされた時に対応が出来るよう、災害時には受入体制を整えます。

【取り組む上での工夫】

法人外の地域団体とも連携し、地域全体の子育て支援を実施

- 八戸市の大型地域子育て支援拠点「こどもはっち」と合同で、転勤で八戸市に移住した子育て家庭に向けた交流場所の提供や、SNS や LINE で園の取組や行事などの情報発信をしている。
- 活動内容の告知、子育て情報発信のために、月 1 回おたよりを発行し、地域の商業施設や小児科、薬局などに配布、設置してもらっている。
- 近隣の高校生によるコンサートの開催や、地域の演奏家による音楽鑑賞会など、地域資源を活かした取組をしている。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

姉妹園・同法人施設、外部団体とも連携し、地域の世代間の交流を活性化

- 地域の世代間の交流が希薄になっていることが課題であり、保護者以外の 30～40 代世代や高齢者世代、在園児以外の子どものとの交流の機会を設けることが、結果的に子育て支援につながると考えた。
- そこで、地域交流活動支援拠点を核にして、様々な活動の展開を計っていきたいと考え、北ウイング内の地域子育て支援拠点事業「ウィンディー」の未就園児・保護者向けサークル登録者や園児が、姉妹園などとのコラボレーションにより、他の世代とも触れ合う機会をつくっている。
- 例えば、外部講師を招いての肩こり健康体操や、園児と一緒に菜園での苗植え活動、クリスマスイルミネーション点灯式など、チラシや SNS で地域にも呼びかけ、参加していただいた。
- こども食堂やこども宅食が定期的に行われるようになったことで、地域の人たちから食料品や日用品の寄付をいただけるようになっている。

子育て支援事業を更に充実させていく上での課題・要望

- 八戸市行政や団体、他法人の認定こども園との交流・協力体制を、さらに構築していくことが今後の課題である。
- 全ての認定こども園が地域子育て支援拠点、あるいはそれに近い形で市町村事業等に位置づけられることで、さらにいろいろな子育て支援事業を展開が出来るのではないだろうかと考えている。
- 行政にも、是非、地域が本来必要としている実のある支援体制の構築に向けて、支援の内容にまで踏み込んで関心を持って欲しいと切に願う。

子育て支援事業と地域子育て支援拠点事業の連携状況

- 姉妹園や法人運営の関連施設等の職員が協力体制を整えて、子育て支援を行っている。
- 各園・施設職員が子育て支援事業への参加意識を持つよう、日頃の業務や園内研修、外部研修を通して、地域との共生を重要課題として取り組んでいる。

【子育て支援事業で大切にしている思い】

「子育て家庭が“子どもが居る幸せ”を実感できるように」という視点から支援を行っています。「子育ての大変さ」だけではなく、「子育ての楽しみ」を保護者が見出すことが、子どもたちの幸せにもつながります。そして、そのような子育て支援をおこなうことが必要だと感じています。園は、子育て家庭が地域のなかで子育てを楽しめる環境をつくり、子育てをする力を育てる応援団になることを心掛け、これからも取り組みを進めていきたいと思っています。
--